

# 巻頭言

北海道師範塾「教師の道」

塾頭 吉田 洋 一

子ども達の成長にとって教師が如何に大きな影響を与えているかは、今更言うまでもない。だからこそ、教師は、子ども達のために「良き実践者」でなければならぬ。

「良き実践者」とは、子ども達が1人の人間として生きていける確かな力を手にすることが出来る様、子ども達を心底愛し、自分の持てる力のありっただけを使って、子ども達を教え導く教師の事をいうのだと思う。

子ども達にとって教師は、時に先導者であり、時に伴走者であり、時に後方からじっと見守る存在だ。子ども達が成長し大人になっても、それぞれの教師と過ごした時間の重さは消えてなくなる事はない。

「師弟関係は一生続く」というが、教師は、ゴールのないレースを走り続けているようなものだ。

走り続けるためには、エネルギーが必要だ。走り続けようという意思が必要だ。そのエネルギーをどうやって補給したらよいのだろうか。その意思をどうやって強固なものにしたらよいのだろうか。

妙薬はない。ただ、学び続け、成長し続けようという意思のみが、子ども達のために良き実践であり続けることを可能にするであろう。

北海道師範塾「教師の道」は、教師が共に学び、共に成長する場を提供しようとしている。そして、研究紀要「北の教師道」は、それぞれの実践を通し、互いに切磋琢磨する舞台である。

教師の皆さんが、それぞれの実践について厳しく指導しあい、触発されながら成長し続ける事が出来たら、どんなにか素晴らしい事だろう。

だから私は、今後とも、一人でも多くの教師の方々に、この研究紀要に参加して欲しいと願っている。